

住み込みの経験を経て思ったこと

ジェフリー・ベイリス



三年ぶりの日本になりました。

それで、一ヶ月半ほど滞在する予定で、折角ですから日本中の懐かしい友達に会いに行こうと思いました。

そして、「懐かしい友達」と言ったら、やはり誰よりもまず合気道小林道場の皆さんのことでしょう。

道場長と指導員の方々を初め、皆さんから学んだ数々の技と合気道の「こつ」は私の合気道へのアプローチを大きく影響し、現在アメリカでの稽古の中でそれは多いに反映されていると思います。

そして、皆さんの暖かい友情の記憶は、日本から離れて四年経った今でも薄くなっているわけではありません。

それをもう一度、短い滞在中にたっぷり味わうために2週間ほど住み込みにしてみようと思っていました。

「住み込み？掃除は多いぞ」と弘明先生。

それにしてもやる、と決心しました。

そして、道場にフル・タイムで生活するようになってみれば、正にその通りです。

段取りをすぐに馴染むことができなかったが、笠原さんの親切な指導のお陰でそれを少しずつ覚えて、最後あたりにはせめて「邪魔」にならないように動くことができました。

掃除という仕事を見直してきた。

それは、単なる部屋を片付ける作業だけではなく、一種の修行だ、と思い知らされました。

もう掃除を軽くみることはしない。

これから我が家でも、「あんた、ちょっと手伝って」と言われるときに、素直に「はい」と返事して普段に重い腰を素早く上げるつもりです。

住み込みの生活は、もちろん掃除だけではありません。

何よりも稽古三昧とは言うまでもないでしょう。

最初は大丈夫でしたけれども、特に小平道場の無比の畳の固さで久しぶりに膝を接触するようになると、膝は文句を言うようになって、やがて正座に座ることすら痛くなってきたのです。

それに寝不足。

指導員の方々はこういう生活を長年に耐えて修行してきたな、と思うと、その不屈の努力に脱帽せざるを得ない。

膝の痛みと寝不足に悩ませるものの、稽古時間は楽しかった。

集中的にやってみると、疲れの所為かもしれないけれども、段々と体が軽く感じ、そして技が流れるようになった、という気がしました。

基本技をやると、何百回でも何千回にやってきた技を、いきなり違う側面から見えるようになったり、体捌きが丸くなったり気がしてきた。

苦手の杖技（特に新組杖と三十一の杖の合わせなど）を集中的に学習する機会にもなり、大変充実した稽古ができました。

これは、道場長と指導員の方々、そして小平道場と所沢道場の「先輩」と「後輩」のお陰です。

今までの合気道の「生涯」で、日本とアメリカで多数の道場で稽古する機会があったけれども、その中で小林道場は本当にユニークな存在だと思います。

彼方此方の道場に行ったり稽古してみたりすると、変に威張ったり「部外者」に排他的な雰囲気や漂ったりしている道場によく当たるのです。

小林道場にそんなことは一切ない。

指導の徹底さと合気道の初心者か可成りの経験を積んできた人を問わずに、稽古に来る人を皆優しく、親しく受け入れること、この二つの性質を同時に発揮しているのは小林道場の誇るべき特徴だと思います。

久しぶりに戻ってみると、こういう前から分かっていたことを改めて、一斉強く感じました。

小林道場は、何時までもこのような貴重なところであって欲しい。

皆さん、素晴らしい二週間の滞在をさせてくれて、有り難うございます。さらに三年が経たないうちに、また会いましょう。